

わたしの 歩んだ道

Vol.25

くさば けいご
草場啓吾さん(自転車ロードレーサー)

ざいじゅう そつぎょう
春日井市出身・在住、坂下中学校卒業。中学1年
でロードレース(自転車競技)を始める。高校時
代にアジア選手権で日本代表に選出され3位。
せんしゅけん
世界選手権にも出場する。その後も多くの大
こうせいせきおさ
会で好成績を収め、2021年に行われた国内最
だい ひがん ゆう
大の全日本選手権ロード・レースで悲願の優
しょう
勝を果たした。



自転車ロードレース



ほそう じゅんい
舗装された道路を走り、その順位やタイム
を競うスポーツ。距離は長いレースで1日
300kmに達することも。これは春日井から東
京に届く距離です。

打ち砕かれた夢から始まった 競技人生

もともと私の夢は、小学1年から
始めた水泳でオリンピック選手にな
ることでした。しかし、怪我をして
しまったことで満足に泳ぐことがで
きなくなり、夢を諦めざるを得ませ
んでした。そんな時、知人の紹介で
トライアスロンを始めました。その
種目の一つである自転車ロードレー
スで、自転車で走る爽快感や目的の
地にたどり着いたときの達成感に惹
かれたことがロードレースを始める
きっかけとなりました。

挫折が自分を強くする

ロードレースは、一回に数百km走
ることもあります。また、時速60km
で走りながら相手と接触すること
もある非常に過酷で危険なレース
です。過去に私も接触してバランス
を崩し、転倒して骨折したことが何
度もありました。怪我の影響で、
レースに出場できないことはとても
辛く、そのたびにロードレースが嫌
いになりかけました。それでも諦め
なかったのは、私が出場できなかつ
たレースで優勝した選手が、いつも
以上に輝いて見え、自分も頂点に立
ちたいと強く思ったからです。その
気持ちが原動力となり、ロードレー
スが続けることができました。

ロードレース界のスターを 目指して

ロードレースは一般道を走るた
め、どこでも競技ができるわけでは
ありません。警察など多くの皆さ
んに事前の周知や交通規制の協力
をしてもらい、開催しています。こ
のため、レースの開催に賛成の人は
かりではありません。それでも、地
元の選手が活躍すれば、熱い声援

夢は一つじゃない

しょうらい じつげん
今、皆さんは将来の夢を持っていますか。夢を実現す
るためには努力も必要ですが、夢と出会う機会も大切
です。私は、これまで水泳やトライアスロン、ロードレー
スを経験して、今の夢と出会う機会を得ることができま
した。皆さんもこれから「経験」という夢と出会う機会
をたくさん得て、自分の本当の夢を見つけてください。そ
して、その夢に向かって努力してもらえたらと思います。



第89回全日本自転車競技選手権大会ロード・レース優勝の瞬間

を送っていただけます。より多くの
皆さんにロードレースという競技
を知っていただくためにも、さらに
活躍し、いつかこのまちでレースを
行える日を夢見て、努力を続けた
と思います。